冠婚葬祭の基本 葬

突然の時、後悔しない為に

vol.3

「無宗教葬」

無宗教葬とは？

既存の葬儀や宗教に囚われず、自由な形式で故人を見送る事が出来る葬儀を「無宗教葬」と呼びます。これは宗教を否定している訳ではなく、特定の宗教に寄らない葬儀のやり方という事です。

無宗教葬で現在定着しているのは、企業や団体で行われる「社葬」や「団体葬」です。例えば大物芸能人が亡くなった際、参列者がお花を1本1本献花する映像を見た事はありませんか？あの様な葬儀が無宗教葬です。

社会的存在としての企業・団体が無宗教葬を行う理由として、「特定の宗教と結びついてはイメージや本来の主旨を損なう為」「色々な宗教宗派に属している会葬者に対しての配慮」等が挙げられます。

無宗教葬に定型はありませんが、一般的に無宗教葬とされている流れをベースにしてプランニングしていく事が多い様です。会場に故人の好きだった曲を流す、スライドやビデオを流す等して故人を偲んで貰います。献花は仏式の焼香の代わりとなります。故人の好きだった花等を1本ずつラッピングしリボンを掛ける等して使う事が多いです。

無宗教葬のメリット・デメリット

●メリット

1．形式に縛られず、自由な創意で行える

通夜はしない等の形式は勿論、時間も昼・夜自由です。決まっているのは、死後24時間以降に火葬をするという事のみです。

2．自己決定権を持って行える

現状葬儀社や宗教者が主導権を持ち、レールに乗せられて形通りに終わる式が殆どです。しかし無宗教葬は遺族が自己決定権を持ち、自ら参加し手作りの葬儀を行う事が出来ます。

3．故人の人柄を中心に置き、その人らしい葬儀が出来る

しっかりとプランニングを行えば故人の望む、故人らしさを強調した葬式が出来る事でしょう。

●デメリット

1．遺族の負担が大きい

一連のプログラムは自分達で作る必要があり、遺族としては悲しみの中での企画・実行は負担が大きい面があります。

2．マニュアルがなく不安

新しい葬儀だけにこれ迄の知識通りには行かず、遺族も参列者も戸惑いや不安があります。

3．遺族・親族からの反対

親族に理解を得られず、以後にしこりを残す可能性もあります。「故人の強い希望」等事前にきちんと説明する事が大切です。エンディングノート等があれば見せ、出来る限り理解を得ましょう。

無宗教葬の注意点

●経験豊富な葬儀社に依頼を

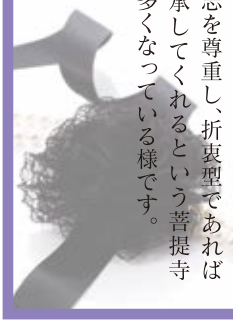
仏式とは違い、セレモニーやビデオ上映の為に参加者も座れる席が必要になる等、経験豊富な葬儀社でなければスムーズな対応が出来ない事もあります。希望を実現してくれる葬儀社を見つける為には、実施例を見せて貰うのが一番です。確立された形式がない分、無宗教葬を成功させるには、どの様な式にするかという「プランニング」がとても大切になります。

●菩提寺がある場合

その場合は、各宗派の宗教儀礼を行った上で戒名を貰わないと埋葬を許可されない事があります。無宗教葬を行う時は、必ず事前に菩提寺の了解を得ておきましょう。許可されない場合は、後述する仏式の葬儀をベースに無宗教葬の自由な部分を加えるという方法もあります。宗教を問わない公営墓地や民営墓地等なら問題はありません。

●菩提寺に無宗教葬が許可されない場合

その場合、仏式葬儀との折衷型という方法もあります。例えば通夜・葬儀と2日ある内の1日を仏式で行い、もう1日を無宗教葬にするケースや、午前中に親族だけで仏式葬儀を行い、午後に宗教色のない告別式をする等です。近年故人や遺族の意志を尊重し、折衷型であれば了承してくれるという菩提寺も多くなっている様です。



今さら聞けない!!
IMASARA KIKENAI

一般常識を再確認いたしませう。

人民日報論文（じんみんにっぽうろんぶん）

中国共産党機関紙の人民日報は5月8日付紙面で、沖縄の日本帰属を疑問視する論文を掲載した。日本の敗戦により「琉球の領有権」は日本になくなったと指摘し、沖縄の「領有権」問題を議論すべきだと訴えている。琉球王国に関しては「明清両朝の時期には中国の属国だった」と強調。19世紀後半の琉球処分を念 頭に「独立国家だった琉球を日本が武力で併合した」と断じた。日本は中国に抗議。中国は「（抗議は）受け入れられない」と反論した。